

4. 職場満足との関連について

現在の職場に満足しているものでは、「学習時間の確保」や「チーム医療実践」ができており、「整形外科診察依頼の困難」や「精神科診察依頼の困難」が少なく、「他の医師との関係」「看護師との関係」「他職種との関係」が良好で、「悩み」のあるものが少なかった。一方、高齢者医療で重要と思う点の中で、「在宅医療との連携」をあげたものが有意に少なかった。

職場の満足度と学習時間の確保

		学習時間の確保				合計	
		確保できて いる	どちらかという と確保できている	どちらかという と確保できていない	確保できて いない		
職場の満足度	満足して	度数	38	46	42	19	145
	いない	%	26.2%	31.7%	29.0%	13.1%	100.0%
	満足して	度数	55	64	27	12	158
	いる	%	34.8%	40.5%	17.1%	7.6%	100.0%
		度数	93	110	69	31	303
合計		%	30.7%	36.3%	22.8%	10.2%	100.0%

(P<0.05)

職場の満足度とチーム医療の実践

		チーム医療の実践				合計	
		できている	どちらかという とできている	どちらかという とできていない	できていない		
職場の満足度	満足して	度数	20	88	30	10	148
	いない	%	13.5%	59.5%	20.3%	6.8%	100.0%
	満足して	度数	27	108	23	0	158
	いる	%	17.1%	68.4%	14.6%	0.0%	100.0%
		度数	47	196	53	10	306
合計		%	15.4%	64.1%	17.3%	3.3%	100.0%

(P<0.005)

職場の満足度と整形外科の診察依頼

		整形外科の診察依頼				合計	
		困らない	あまり困らない	時々困る	いつも困る		
職場の満足度	満足していない	度数	49	57	33	9	148
		%	33.1%	38.5%	22.3%	6.1%	100.0%
	満足している	度数	83	45	27	3	158
		%	52.5%	28.5%	17.1%	1.9%	100.0%
合計	度数	132	102	60	12	306	
	%	43.1%	33.3%	19.6%	3.9%	100.0%	

(P<0.005)

職場の満足度と精神科の診察依頼

		精神科の診察依頼				合計	
		困らない	あまり困らない	時々困る	いつも困る		
職場の満足度	満足していない	度数	33	45	44	26	148
		%	22.3%	30.4%	29.7%	17.6%	100.0%
	満足している	度数	57	30	53	17	157
		%	36.3%	19.1%	33.8%	10.8%	100.0%
合計	度数	90	75	97	43	305	
	%	29.5%	24.6%	31.8%	14.1%	100.0%	

(P<0.01)

職場の満足度と他の医師との関係

		他の医師との関係				合計	
		大変良好	だいたい良好	ふつう	(あまり)良好でない		
職場の満足度	満足していない	度数	17	83	47	4	151
		%	11.3%	55.0%	31.1%	2.6%	100.0%
	満足している	度数	46	85	21	2	154
		%	29.9%	55.2%	13.6%	1.3%	100.0%
合計	度数	63	168	68	6	305	
	%	20.7%	55.1%	22.3%	2.0%	100.0%	

(P<0.001)

職場の満足度と看護師との関係

		看護師との関係				合計	
		大変良好	だいたい良好	ふつう	(あまり)良好でない		
職場の満足度	満足していない	度数	17	94	36	4	151
		%	11.3%	62.3%	23.8%	2.6%	100.0%
	満足している	度数	46	92	15	1	154
		%	29.9%	59.7%	9.7%	0.6%	100.0%
合計		度数	63	186	51	5	305
		%	20.7%	61.0%	16.7%	1.6%	100.0%

(P<0.001)

職場の満足度と他の職種との関係

		他職種との関係				合計	
		大変良好	だいたい良好	ふつう	(あまり)良好でない		
職場の満足度	満足していない	度数	15	87	44	5	151
		%	9.9%	57.6%	29.1%	3.3%	100.0%
	満足している	度数	38	96	19	1	154
		%	24.7%	62.3%	12.3%	0.6%	100.0%
合計		度数	53	183	63	6	305
		%	17.4%	60.0%	20.7%	2.0%	100.0%

(P<0.001)

職場の満足度と悩み

		悩み			
		ある	ない	合計	
職場の満足度	満足していない	度数	118	34	152
		%	77.6%	22.4%	100.0%
	満足している	度数	97	55	152
		%	63.8%	36.2%	100.0%
合計		度数	215	89	304
		%	70.7%	29.3%	100.0%

(P<0.01)

今後の勤務についての考え方と他の医師との関係

		他の医師との関係				合計	
		大変良好	だいたい良好	ふつう	(あまり)良好でない		
今後の勤務 についての 考え方	続けたくない	度数	24	90	47	6	167
		%	14.4%	53.9%	28.1%	3.6%	100.0%
	続けたい	度数	39	78	21	0	138
		%	28.3%	56.5%	15.2%	0.0%	100.0%
合計		度数	63	168	68	6	305
		%	20.7%	55.1%	22.3%	2.0%	100.0%

(P<0.001)

今後の勤務についての考え方と看護師との関係

		看護師との関係				合計	
		大変良好	だいたい良好	ふつう	(あまり)良好でない		
今後の勤務 についての 考え方	続けたくない	度数	25	98	39	5	167
		%	15.0%	58.7%	23.4%	3.0%	100.0%
	続けたい	度数	38	88	12	0	138
		%	27.5%	63.8%	8.7%	0.0%	100.0%
合計		度数	63	186	51	5	305
		%	20.7%	61.0%	16.7%	1.6%	100.0%

(P<0.001)

今後の勤務についての考え方と他職種との関係

		他職種との関係				合計	
		大変良好	だいたい良好	ふつう	(あまり)良好でない		
今後の勤務 についての 考え方	続けた くない	度数	21	93	48	5	167
		%	12.6%	55.7%	28.7%	3.0%	100.0%
	続けたい	度数	32	90	15	1	138
		%	23.2%	65.2%	10.9%	0.7%	100.0%
合計		度数	53	183	63	6	305
		%	17.4%	60.0%	20.7%	2.0%	100.0%

(P<0.001)

職場の満足度と高齢者医療における在宅医療との連携

		在宅医療との連携		
		重要でない	重要	合計
職場の満足度	満足していない	度数 46	108	154
		% 29.9%	70.1%	100.0%
	満足している	度数 65	94	159
		% 40.9%	59.1%	100.0%
合計		度数 111	202	313
		% 35.5%	64.5%	100.0%

(P<0.05)

5. 勤務継続希望との関連について

現在の勤務の継続を希望するものにおいては、高齢者医療で重要と思う点で「総合評価の下で行うチーム医療」をあげたものが多く、「他の医師との関係」「看護師との関係」「他職種との関係」が良好で、「悩み」のあるものが少なかった。また、「皮膚科診察依頼の困難」はあまりなかった。一方、日本老年医学会の専門医資格保有者は少ないという結果であった。さらに、一ヶ月当りの「勤務時間外の電話対応数」「勤務時間外の呼出回数」は有意に高いという結果が得られた。

今後の勤務についての考え方と高齢者医療における総合評価の下で行うチーム医療

		高齢者医療における総合評価の下で行うチーム医療		
		重要でない	重要	合計
今後の勤務についての考え方	続けたくない	度数 63	112	175
		% 36.0%	64.0%	100.0%
	続けたい	度数 36	102	138
		% 26.1%	73.9%	100.0%
合計		度数 99	214	313
		% 31.6%	68.4%	100.0%

(P<0.05)

今後の勤務についての考え方と悩み

		悩み			
		ある	ない	合計	
今後の勤務 についての 考え方	続けたくない	度数	131	37	168
		%	78.0%	22.0%	100.0%
	続けたい	度数	84	52	136
		%	61.8%	38.2%	100.0%
合計		度数	215	89	304
		%	70.7%	29.3%	100.0%

(P<0.005)

今後の勤務についての考え方と皮膚科の診療依頼

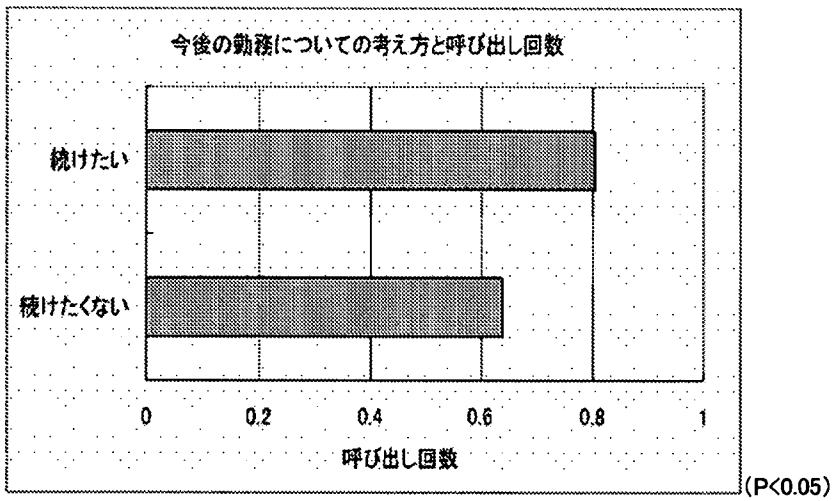
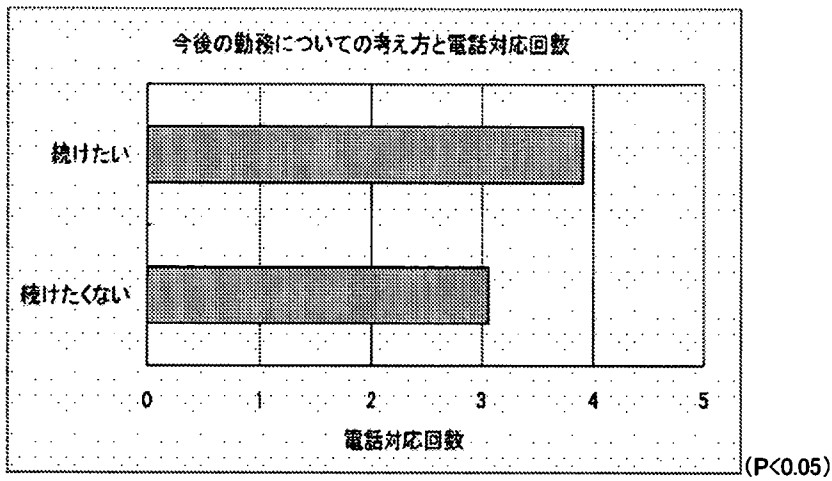
		皮膚科の診療依頼				合計	
		困らない	あまり困らない	時々困る	いつも困る		
今後の勤務 についての 考え方	続けたくない	度数	58	48	54	10	170
		%	34.1%	28.2%	31.8%	5.9%	100.0%
	続けたい	度数	64	44	22	6	136
		%	47.1%	32.4%	16.2%	4.4%	100.0%
合計		度数	122	92	76	16	306
		%	39.9%	30.1%	24.8%	5.2%	100.0%

(P<0.05)

今後の勤務についての考え方と日本老年医学会専門医取得状況

		日本老年医学会専門医		合計	
		取得していない	取得している		
今後の勤務 についての 考え方	続けたくない	度数	87	12	99
		%	87.9%	12.1%	100.0%
	続けたい	度数	59	1	60
		%	98.3%	1.7%	100.0%
合計		度数	146	13	159
		%	91.8%	8.2%	100.0%

(P<0.05)



2-3 利用者

2-3-1. 利用者への調査結果(単純集計)

回収率は 16.1%(117 施設/727 施設)、総数は 481 票であった。なお、各設問ごとに、記入もれ、不備のある回答は除外した。

以下、本報告書の最後に掲載した調査票の質問にそって記述する。

1.この調査票に記載された患者様は次のどちらをご利用されていますか。

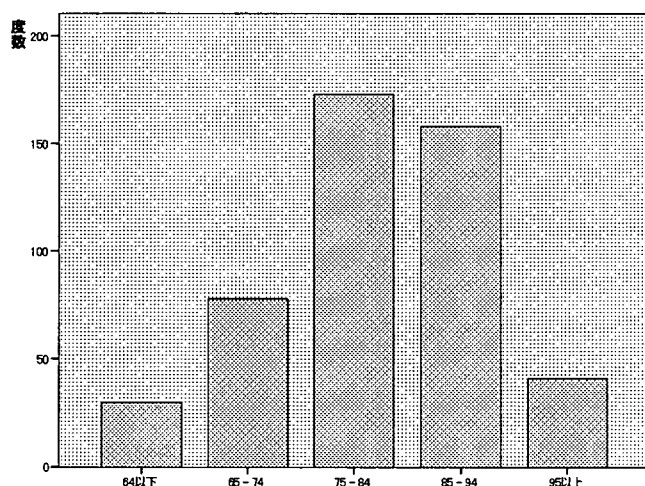
(1 医療療養病床 2 介護療養病床)

今回回答のあった利用者のうち、67.1%が「医療療養病床」に入院し、31.7%が「介護療養病床」に入院していた。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
医療療養病床	322	67.1	67.9	67.9
介護療養病床	152	31.7	32.1	100.0
合計	474	98.8	100.0	
欠損値	6	1.3		
合計	480	100.0		

2.患者様の生年月日を記入してください。

生年月日から 2008 年 2 月 1 日現在で計算した利用者の年齢は、平均値 81.5 歳(最小値 41 歳、最大値 106 歳)であった。「75-84 歳」36.0%が最も多く、75 歳以上で全体の 77.5%を占めた。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
64以下	30	6.3	6.3	6.3
65-74	78	16.3	16.3	22.5
75-84	173	36.0	36.0	58.5
85-94	158	32.9	32.9	91.5
95以上	41	8.5	8.5	100.0
合計	480	100.0	100.0	

3.患者様の性別を教えてください。

(1 男 2 女)

利用者の性別は、「男性」41.0%、「女性」57.7%であった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
男性	197	41.0	41.6	41.6
女性	277	57.7	58.4	100.0
合計	474	98.8	100.0	
欠損値	6	1.3		
合計	480	100.0		

5.貴施設に移られるまでに患者様がいた急性期病院に入院される前は、患者様はどちらにおられましたか。

(1 自宅・有料老人ホーム 2 他の病院(療養病床) 3 他の病院(療養病床以外) 4 老人保健施設 5 福祉施設、認知症グループホーム 6 その他)

急性期病院へ入院前の所在は、「自宅あるいは有料老人ホーム」60.4%が最も多く、「他の病院」に入院していたのは「療養病床」5.8%「療養病床以外」17.9%と 2 群合わせて 23.7%であった。「その他」では、「同病院の介護(医療)療養病床」、「同病院の外来」、「同病院(療養病床以外)」と、「同病院」の他科からの入院との回答が多かった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
自宅・有料老人ホーム	290	60.4	60.4	60.4
他の病院(療養病床)	28	5.8	5.8	66.3
他の病院(療養病床以外)	86	17.9	17.9	84.2
老人保健施設	24	5.0	5.0	89.2
福祉施設・認知症グループホーム	27	5.6	5.6	94.8
その他	25	5.2	5.2	100.0
合計	480	100.0	100.0	

6.現在、特別養護老人ホームに申請中ですか。

(1 はい 2 いいえ)

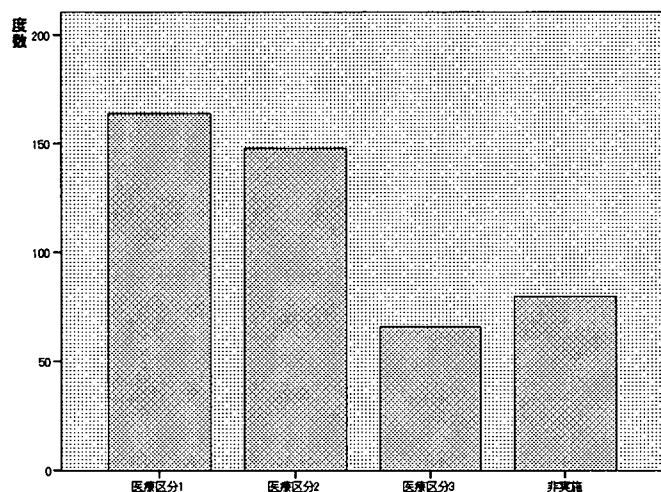
12.7%が特別養護老人ホームに申請し、86.5%がしていなかった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	61	12.7	12.8	12.8
いいえ	415	86.5	87.2	100.0
合計	476	99.2	100.0	
欠損値	4	.8		
合計	480	100.0		

7.医療区分について教えてください。

(1 医療区分1 2 医療区分2 3 医療区分3 4 非実施)

医療区分は、「医療区分1」35.8%、「医療区分2」32.3%で、2群合わせて68.1%であった。一方、「非実施」は80人、17.5%であったが、そのうち55人、68.8%は介護療養病床入院例であった。

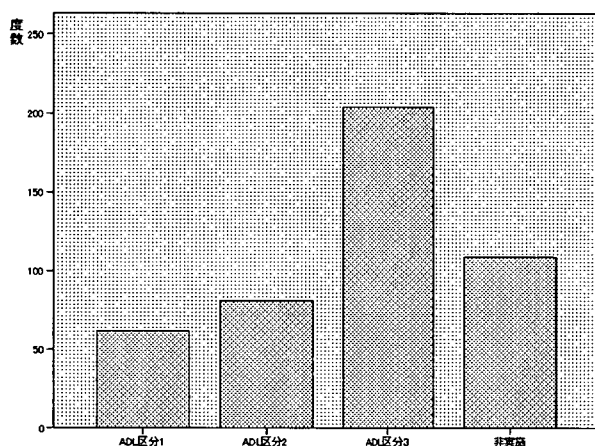


	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
医療区分1	164	35.1	35.8	35.8
医療区分2	148	31.7	32.3	68.1
医療区分3	66	14.1	14.4	82.5
非実施	80	17.1	17.5	100.0
合計	458	98.1	100.0	
欠損値	9	1.9		
合計	467	100.0		

8.ADL 区分について教えてください。

(1 ADL1 2 ADL2 3 ADL3 4 非実施)

ADL 区分は、「ADL3」42.5%が最も多かった。一方、「非実施」は109人、22.7%であったが、そのうち71人、66.4%は介護療養病床入院例であった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
ADL1	62	12.9	13.6	13.6
ADL2	81	16.9	17.8	31.4
ADL3	204	42.5	44.7	76.1
非実施	109	22.7	23.9	100.0
合計	456	95.0	100.0	
欠損値	24	5.0		
合計	480	100.0		

9.患者様の要介護度について教えてください。

(1 非該当(自立) 2 要支援1 3 要支援2 4 要介護1 5 要介護2 6 要介護3 7 要介護4 8 要介護5 9 非実施)

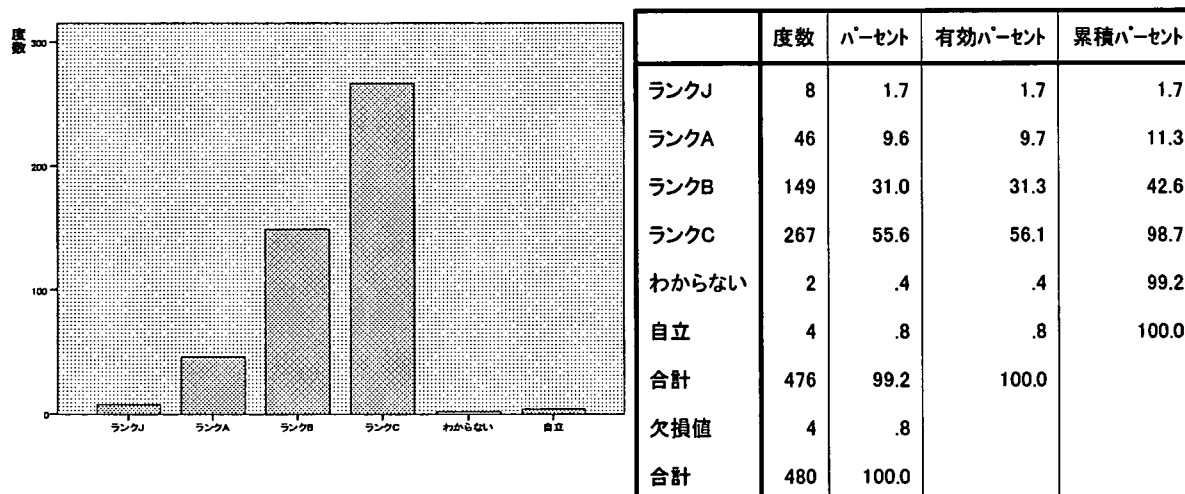
要介護度は、「要介護5」37.0%が最も多く、「要介護4」17.2%をあわせると、全体の半分以上を占め、療養病床入院患者の介護度の高さがうかがわれた。一方、「非該当(自立)」は1.5%であった。「非実施」16.7%の中では1人を除きすべて医療療養病床に入院していた。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
非該当(自立)	7	1.5	1.5	1.5
要支援1	6	1.3	1.3	2.8
要支援2	12	2.6	2.6	5.5
要介護1	17	3.7	3.7	9.2
要介護2	28	6.1	6.1	15.3
要介護3	61	13.3	13.3	28.7
要介護4	79	17.2	17.3	46.0
要介護5	170	37.0	37.2	83.2
非実施	77	16.7	16.8	100.0
合計	457	99.3	100.0	
欠損値	3	.7		
合計	460	100.0		

10.患者様の日常生活自立度(寝たきり度)は、以下のどれに該当しますか。

- 1 ランク J: 何らかの障害などを有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。
- 2 ランク A: 屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。
- 3 ランク B: 屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。
- 4 ランク C: 1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。
- 5 わからない
- 6 自立

日常生活自立度(寝たきり度)は、「ランク C: 1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。」55.6%が最も多く、「ランク B: 屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。」31.0%を合わせると、全体の 8 割以上を占める結果となった。一方、「自立」は 0.8%であった。

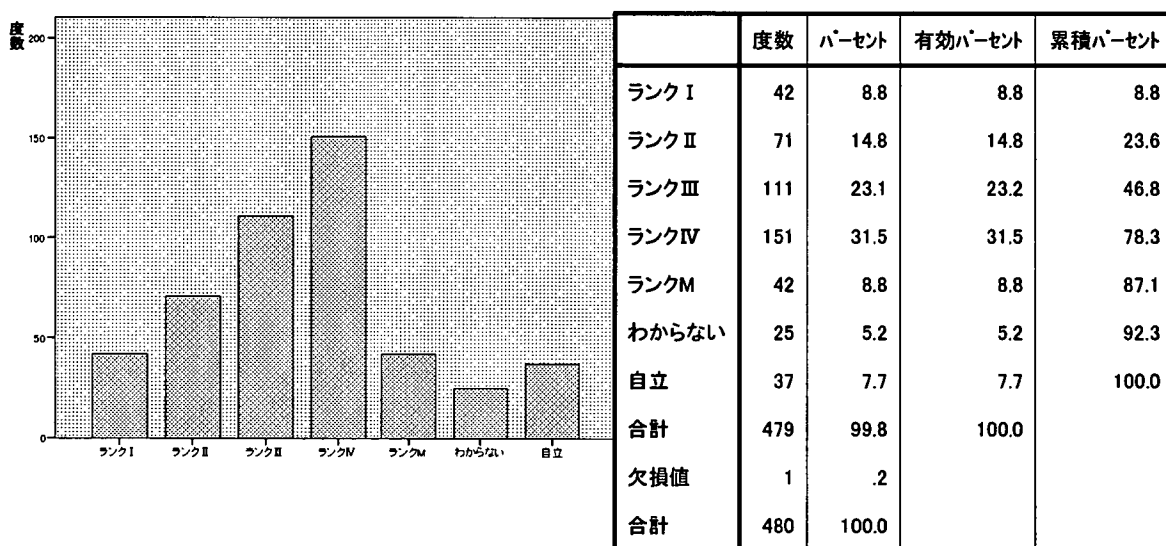


	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
ランクJ	8	1.7	1.7	1.7
ランクA	46	9.6	9.7	11.3
ランクB	149	31.0	31.3	42.6
ランクC	267	55.6	56.1	98.7
わからない	2	.4	.4	99.2
自立	4	.8	.8	100.0
合計	476	99.2	100.0	
欠損値	4	.8		
合計	480	100.0		

11.患者様の認知機能の状態は、以下のどれに該当しますか。

- 1 ランクⅠ： 何らかの障害などを有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
- 2 ランクⅡ： 日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
- 3 ランクⅢ： 日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
- 4 ランクⅣ： 日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
- 5 ランクⅤ： 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医を必要とする。
- 6 わからない
- 7 自立

認知機能の状態は、「ランクⅣ：日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。」31.5%が最も多く、次に「ランクⅢ：日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。」23.1%であった。一方、「自立」は 7.7%であった。



12.現在、患者様に、医師から診断された病気がありますか。以下のうち、あてはまるものすべてに○をつけてください。(たとえば9と13が該当するときには両方とも○をつけてください)

[Charlson Index, 1987]

併存疾患は、「脳血管障害」251(23.1%)が最も多く、「その他」を除き、以下「認知症」168(15.5%)、「糖尿病」89(8.2%)、「片麻痺」88(8.1%)であった。一方、「その他」で、「肺炎」、「高血圧」、「パーキンソン病、ALS、筋ジストロフィー」、「骨折、脊髄損傷など整形外科疾患」、「うつ病など精神障害」、「甲状腺機能障害」、「骨粗鬆症」という回答がみられた。

番号	Charlson Index	度数	番号	Charlson Index	度数
0	診断された病気はない	5	11	片麻痺	88
1	虚血性心疾患	50	12	中等症～重症の腎疾患	17
2	心不全	71	13	組織障害を伴う糖尿病	8
3	慢性肺疾患	45	14	5年以内に診断された原発性腫瘍	31
4	胃・十二指腸潰瘍	21	15	白血病	1
5	末梢動脈疾患	8	16	リンパ腫	2
6	軽度の肝疾患	10	17	中等症～重症の肝疾患	10
7	脳血管障害	251	18	転移性腫瘍	21
8	膠原病	6	19	AIDS	0
9	糖尿病	89	20	その他	185
10	認知症	168	合計: 1087		

13.現在、患者様は次のような状態にありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

利用者の状態は、「経管栄養」174(31.2%)が最も多く、以下「喀痰吸引」134(24.0%)、「膀胱カテーテル」64(11.5%)であった。

番号		度数	番号		度数
1	経管栄養	174	7	疼痛管理	17
2	気管切開	38	8	人工透析	3
3	喀痰吸引	134	9	人工肛門	7
4	膀胱カテーテル	64	10	中心静脈栄養(IVH)	29
5	褥瘡処置	40	11	モニター測定(心拍・ 血圧・酸素飽和度)	8
6	酸素療法	44	12	1～11のどれもない	179

合計: 558

14.患者様と同居している(同じ敷地内に住んでいる)人は、合計何人ですか。患者様を含めてお答えください。

同居人数は、平均 2.8 人(最小値 0 人、最大値 22 人)で、「2 人」30.0%が最も多く、次に「3 人」19.4%、「1 人」19.0%であった。なお、0 人と答えた 13 回答は欠損値に含めた。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1	91	19	19.9	19.9
2	144	30	31.4	51.3
3	93	19.4	20.3	71.6
4	57	11.9	12.4	84.1
5	33	6.9	7.2	91.3
6	28	5.8	6.1	97.4
7	7	1.5	1.5	98.9
8 以上	5	1	1.1	100
合計	458	95.4	100	
欠損値	22	4.6		
合計	480	100		

15.患者様の「お世話を主にしている人(主介護者)」に○をつけてください。患者さんからみた続柄でお答えください。(○は1つ)

(0.親族の主介護者はいない(老人ホームなどに入所の場合を含む) 1.患者さんの配偶者(内縁を含む) 2. 息子(配偶者あり) 3. 息子(配偶者なし) 4. 娘(配偶者あり) 5. 娘(配偶者なし) 6. 息子の妻(嫁) 7. 娘の夫(婿) 8. 孫 9. 孫の配偶者 10. 兄弟・姉妹 11. その他の親族 12. ホームヘルパー 13. 家政婦やお手伝いさん 14. 近隣の人、知人、ボランティア 15. 民生委員、町内会、婦人会の役員 16. その他)

主介護者は、「配偶者」32.9%が最も多く、以下「娘(配偶者あり)」14.4%、「息子の妻(嫁)」14.0%であった。一方、「親族の主介護者なし」は 5.6%であった。また、「娘の夫(婿)」、「家政婦やお手伝いさん」という回答はなかった。「その他」では、「両親」、「大家さん」、「会社の上司」、「世話人」という回答があった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
配偶者	158	32.9	33.5	33.5
娘(配偶者あり)	69	14.4	14.6	48.1
息子の妻	67	14.0	14.2	62.3
息子(配偶者あり)	50	10.4	10.6	72.9
親族の主介護者なし	27	5.6	5.7	78.6
息子(配偶者なし)	27	5.6	5.7	84.3
娘(配偶者なし)	23	4.8	4.9	89.2
兄弟姉妹	16	3.3	3.4	92.6
その他親族	10	2.1	2.1	94.7
その他	8	1.7	1.7	96.4
ホームヘルパー	6	1.3	1.3	97.7
孫	4	0.8	0.8	98.5
近隣の人	3	0.6	0.6	99.1
孫の配偶者	2	0.4	0.4	99.5
民生委員など	1	0.2	0.2	100
合計	471	98.1	100	
欠損値	9	1.9		
合計	480	100		

16.患者様の「お世話を主にしている人(主介護者)」以外に、日常的に患者様のお世話や家事を手伝っている人がいますか。

(1 いる 2 いない)

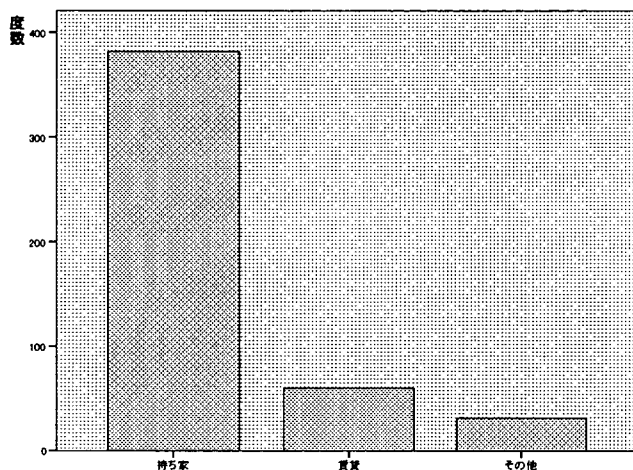
「いない」が 60.0%で、主介護者一人で介護が行われているケースが多かった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
いる	185	38.5	39.1	39.1
いない	288	60.0	60.9	100.0
合計	473	98.5	100.0	
欠損値	7	1.5		
合計	480	100.0		

17.患者様がお住まいになっている家は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- (1. 一戸建ての持ち家 2. 一戸建ての賃貸 3. 集合住宅の持ち家 4. 集合住宅の賃貸 5. その他 6. わからない)

「一戸建ての持ち家」、「集合住宅の持ち家」を合わせた「持ち家」が 79.6%、「一戸建ての賃貸」、「集合住宅の賃貸」を合わせた「賃貸」が 12.5%であった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
持ち家	382	79.6	80.8	80.8
賃貸	60	12.5	12.7	93.4
その他	31	6.5	6.6	100.0
合計	473	98.5	100.0	
欠損値	7	1.5		
合計	480	100.0		

18.患者様は生活保護世帯ですか。

- (1 はい 2 いいえ)

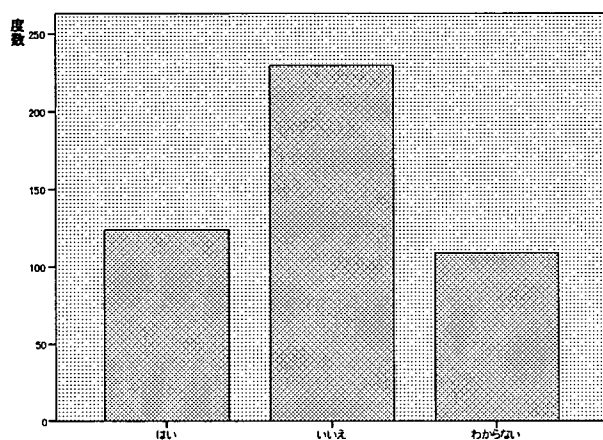
生活保護世帯は 5.0%であった。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	24	5.0	5.0	5.0
いいえ	456	95.0	95.0	100.0
合計	480	100.0	100.0	

19.患者様は介護保険自己負担の限度額対象者ですか。

(1. はい 2. いいえ 3. わからない)

介護保険自己負担の限度額対象者は 25.8%であった。



	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
はい	124	25.8	26.8	26.8
いいえ	230	47.9	49.7	76.5
わからない	109	22.7	23.5	100.0
合計	463	96.5	100.0	
欠損値	17	3.5		
合計	480	100.0		

2-3-2. 利用者への調査結果(分散分析、およびクロス集計)

次に、施設長や勤務医師の分析と同様に、一元配置分散分析、およびクロス集計(χ^2 乗検定)を用いて更なる検討をするために次のような手続きを行った。なお、利用者調査は、本人ないし家族の了解を得たうえで相談員(医療ソーシャルワーカーなど)に記入いただいたもので、主に追跡調査のためのベースラインデータ収集の目的があった。そこで、今年度の分析においては、2つの指標に焦点を当て、これらとそれぞれの変数の関係を検討した。一つは、医療療養病床の利用者か介護療養病床の利用者かという違いとの関連である。もう一つは、Charlson(1987)が明らかにした一年後の死亡率と強く関連する併存疾患の評価法、Charlson Index(併存疾患尺度)を用いてそれぞれの変数との関連を調べることにした。Charlson Indexは、19の疾患を取り上げ、さらに重み付けをして足し合わせ総合的な併存疾患スコアを計算するもので、死亡に直結する疾患の関与度を調べるのに広く使われている。疾患の重なりと死亡を関係付ける“医療ニーズ”を数量化した指標と考えることができる。重み付け得点を次に示す。なお、このリストに含まれていない疾患(たとえば骨粗鬆症など)はカウントされない。

番号	疾患名	重み付け点	番号	疾患名	重み付け点
1	虚血性心疾患	1	11	片麻痺	2
2	心不全	1	12	中等症～重症の腎疾患	2
3	慢性肺疾患	1	13	組織障害を伴う糖尿病	2
4	胃・十二指腸潰瘍	1	14	5年以内に診断された原発性腫瘍	2
5	末梢動脈疾患	1	15	白血病	2
6	軽度の肝疾患	1	16	リンパ腫	2
7	脳血管障害	1	17	中等症～重症の肝疾患	3
8	膠原病	1	18	転移性腫瘍	6
9	糖尿病	1	19	AIDS	6
10	認知症	1			

Charlson Indexについては、その分布から(0から16、最頻度値1、中央値2)0-1点、2-3点、4点以上の3群に区分した変数「Charlson Index3R」を計算した。対象者が急性期病院に入院するまで住んでいた居住場所については、自宅、ないし有料老人ホームとそれ以外に区分した変数「元の住まい2R」を計算した。主介護者については単純集計結果にあるとおり、さまざまな続柄の人々が担っており、分類は容易でない。ここでは、配偶者(夫を含む)、息子(既婚、未婚含む)、娘(既婚、未婚含む)、義理の娘(嫁、なお義理の息子の例はなかった)、それ以外(介護者なしや有料老人ホーム入居者を含む)に区分した変数「主介護者5R」を計算した。住宅の形態については、自分(たち)で買い取った持ち家とそれ以外に区分した変数「住居形態2R」を計算した。経済状態の指標として、生活保護、ないし介護保険自己負担の限度額認定対象者とそれ以外に区分した

変数「家計2R」を計算した。要介護度については、自立から要介護2まで、要介護3、要介護4、要介護5に区分した変数「要介護度4R」を計算した。日常生活自立度については、自立/ランクJ/ランクA、ランクB、ランクCに区分した変数「自立度3R」を計算した。認知機能状態については、自立/ランクI/ランクII、ランクIII、ランクIV、ランクMに区分した変数「認知状態4R」を計算した。

先に求めた「医療療養病床利用者か介護療養病床利用者か」、および「Charlson Index3R」の2変数と、上記のさまざまな変数との一元配置分散分析、およびクロス集計(χ^2 乗検定)を行った。以下では、それらの結果の中から、主なものについて示す。